

畜 産

【肥育牛】（日本畜産振興会 俵牛づくり）

サシの条件

脂肪細胞が増える時期は生後 12 か月齢から 20 か月齢の間です。この時期にビタミン A を下げ脂肪の蓄積を増やすことが、絶対条件です。具体的には、①飼料を安定的に食べさせて、ルーメンの揮発性脂肪酸を効率的、最大限に高める、②血統に合わせたビタミン A のコントロールを行うことです。この時期の観察では、飼料を食べた後、寝ながら咀嚼・反芻を行っている牛は、ルーメン発酵の状態が良くロース芯のサシの見込める牛です。

肥育牛ビタミン A コントロールの要求量

体重 1 kg 当たり肉用牛のビタミン A 要求量は 42.4 IU/kg です。レチノールでは 12 μg（マイクログラム）で、β-カロテンでは 100 μg 換算程度になります。体重 700 kg のビタミン A の要求量は 700 kg × 42.4 IU = 29680 IU になります。

和牛去勢では、生後 12～14 ヶ月齢では 90～100 IU/dl とします。生後 17 か月齢から 20 か月齢の間は、30～60 IU/dl とし、それ以降は 40～50 IU/dl に推移させます。

【繁殖和牛】 2 産後以降の繁殖牛（経産牛）の管理

（肉用繁殖牛飼養管理の手引き 基礎編）

2 産時には早い牛でも 35 か月齢頃に、発育量は 0.1 kg/日以内となります。自身の発育に要する飼料は考慮する必要がなくなり、維持期で日量ヘイキューブ 1 kg、やや刈り遅れのイネ科乾草又は稲ワラ 6 kg、濃厚飼料 1 kg をベースに、授乳期は濃厚飼料を 2 kg 増量、妊娠後期 2 か月は濃厚飼料 1 kg 増量します。経産牛は、加齢により基礎代謝量が減少するため太り易くなります。牛の栄養状態（ボディコンディション）を見ながら飼料の減量等が必要となります。なお、ボディコンディションの調整は、受胎を確認し安定期に入ってから妊娠後期に入る前まで（分娩予定 6 か月前～3 か月前）の期間に実施します。また、妊娠後期の飼料減量は虚弱産子や分娩遅延につながり易く、分娩後の飼料減量も産乳量の減少や子宮回復遅延・卵巣機能低下を引き起こし易いので、くれぐれも注意が必要です。

【自給飼料生産】 草地の簡易更新について

1 作溝播種機による草地の簡易更新の紹介

○放牧草地、または採草草地の利用を長年継続していると、牧草以外の草種の侵入拡大、裸地の増加、生育の鈍化等により、収量や品質の低下により生産性が低下していきます。

また、気象条件の変化が顕著な昨今、今まで生産性の高かった品種や草種が、徐々に適さなくなってきた場合も見受けられるようになってきました。

このようなことから、簡易播種機による草地更新を行ったので紹介します。

2 管内牧場での更新作業

○長野管内の信濃町富士里牧場にて約2haの草地に対し、牧草の播種作業を実施しました。事業主体は信濃町で長野農業農村支援センターが県関係機関と連携して支援し、独立行政法人家畜改良センター茨木牧場長野支場さんの協力で作溝播種機（グレートプレーンズ社モデル3P606NT）を無償貸し出しにより作業をおこなったところ、条件が整えば1日で2haの作業を行うことができました。

○作溝播種機により以下の作業を同時に行うことで省力化が可能。

- ①コールターにより土壌表面の溝切
- ②ディスクオープナーで溝を開き、種子落下
- ③プレスホイールで鎮圧

※注意点として、更新草地表土に溝を切れる状態か確認する必要があります。

○播種作業に先立ち、事前に除草作業のため除草剤散布を行います。今回、長野県内ではあまり普及していませんが比較的平坦な富士里牧場では活用できることから、軽トラックに装着する簡易ブームノズル（ヤマホ工業株式会社製 除草剤噴口13口装着）を使用したところ、1日で2haの作業ができました。

【更新に伴う作業内容】

○使用種子 オーチャードグラス「まきばたろう」 3kg/10a
 ペレニアルライグラス「ヤツカゼ2」 1kg/10a
 以上の2草種を混合して播種

○作業経過

牧草刈り取り作業	令和5年7月2日
石灰質資材散布	令和5年8月2日
除草剤散布（2回） （肥料散布）	令和5年8月3日、10日慶男ラックに装着する簡易ブームノズル使用 未実施
播種作業	令和5年8月21日、草地の状態が播種作業に適しておらず中断 令和5年9月25日 2haの播種作業を完了



軽トラックに装着の簡易ブームノズルにより除草剤散布を行いました。

作溝播種機により省力的な草地更新ができます。

溝にしっかり種子が落下しますので、出芽が安定します。